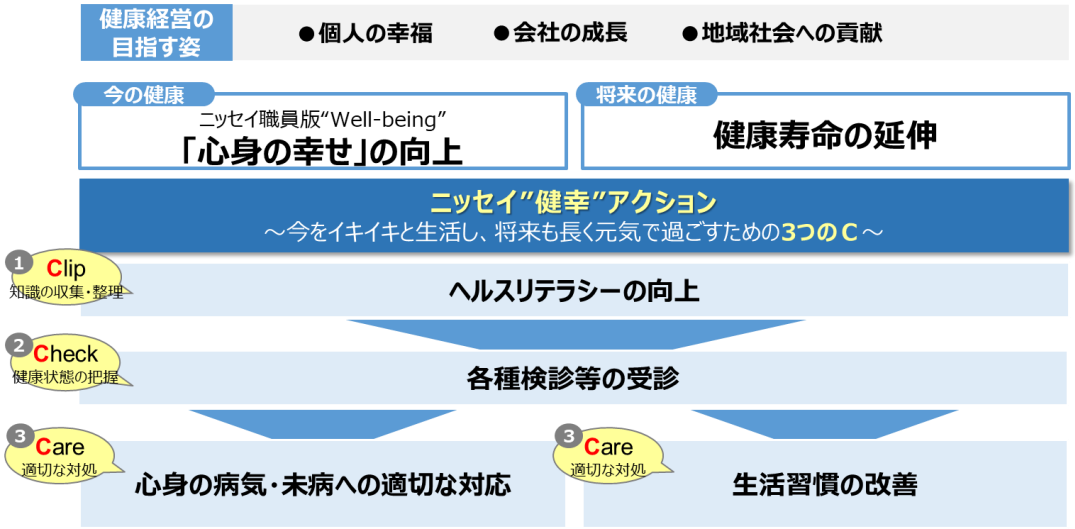
従業員の健康増進に関する取組とその状況について

当社ではお客様と社会の未来を支え続ける揺るぎないマーケットリーダーであり続けるために、
最大の資産である人材の多様化・高度化を通じた、経営戦略を支える人的基盤の構築が不可欠だという
考え方のもと、人材基盤の構築の一つの取組として、健康経営®を推進しています。
健康経営に関する当社の考え方や取り組む意味合い等については統合報告書や健康経営レポートをご参照ください。
以下に2024年9月現在の取組およびその状況についてお知らせいたします。

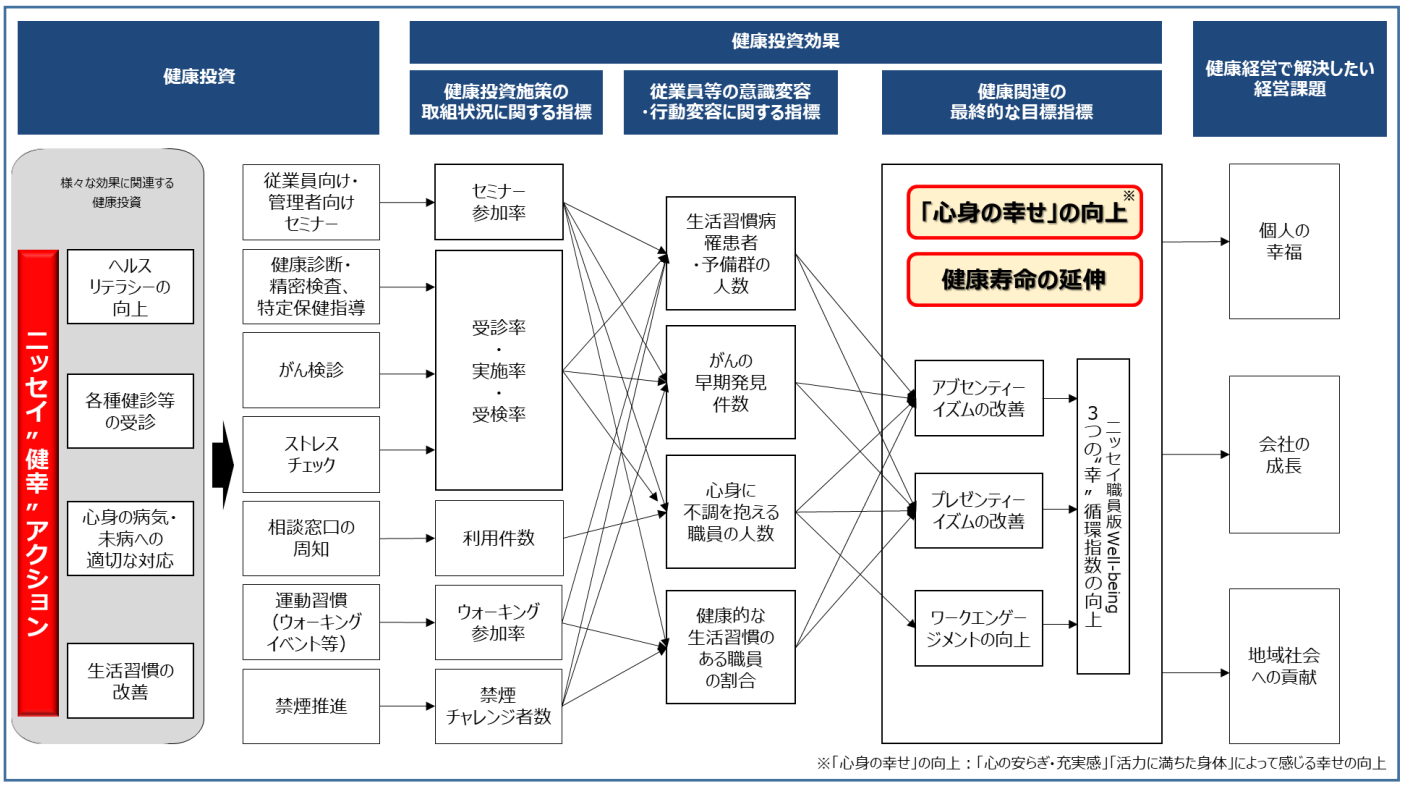
『健康経営®』は特定非営利活動法人 健康経営研究会の登録商標です

健康経営の目指す姿と主な取組

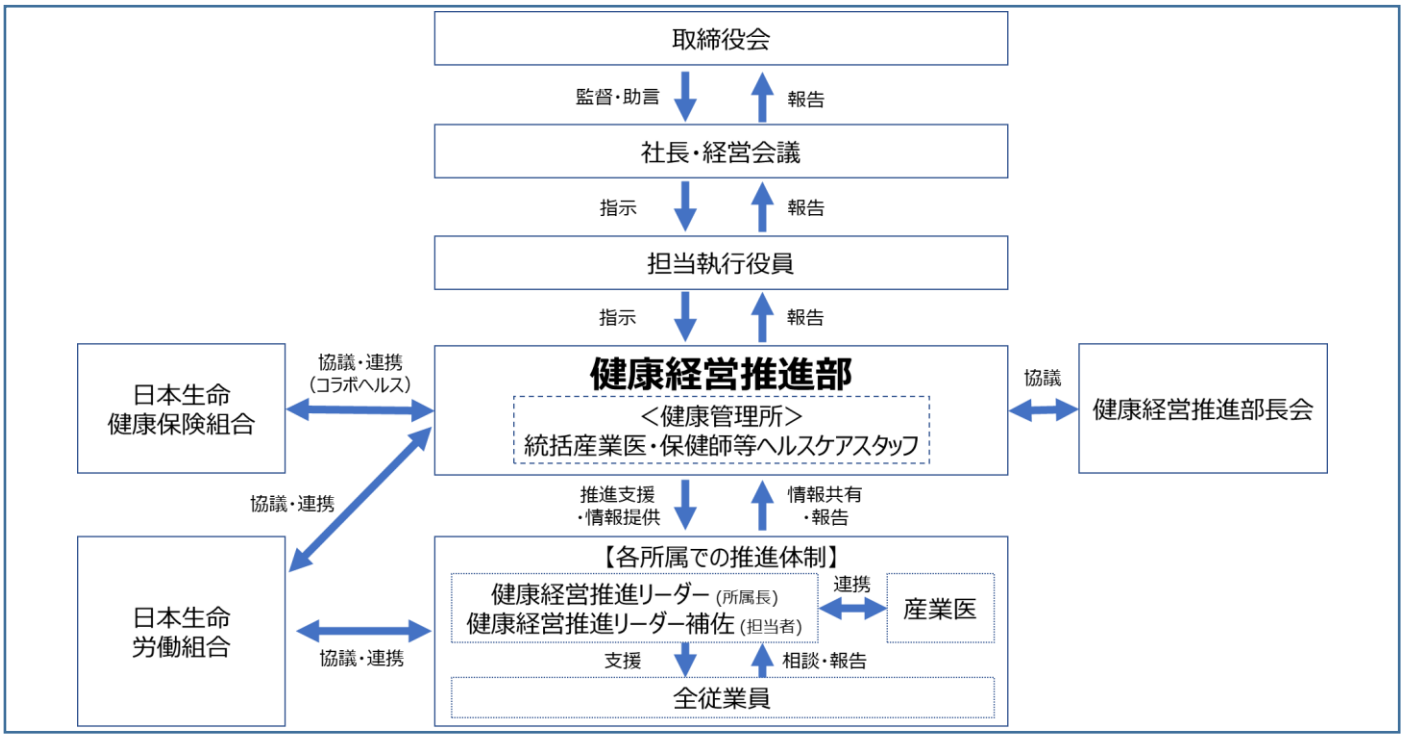
当社の健康経営は、「個人の幸福」「会社の成長」「地域・社会への貢献」を目指す姿として掲げています。
具体的には、全職員の「心身の幸せ」の向上と「健康寿命の延伸」に向けた一人ひとりの行動
「ニッセイ"健幸(けんこう)"アクション」を推進するために、各種施策を実施しています。



健康経営戦略マップ



健康経営推進体制



主な施策

ヘルスリテラシーの向上

＜健康に関する学習機会の提供＞

- 全職員向けに、社内イントラネットや社内放送を活用した生活習慣の改善や各種検診等に関する研修・セミナーを実施しています。
- 管理者層向けに、管理者に求められる安全衛生・健康管理、ラインケア知識の向上のための研修を実施しています。

各種検診等の受診

＜がん検診の受診勧奨、受診しやすい環境整備＞

- がんの早期発見・早期治療に向けて、がん検診を受診しやすい環境整備を行い、受診勧奨を行っています。

【具体取組】
- ●社内研修を通じて、がんについての理解促進とがん検診の重要性を周知
- ●健康保険組合による婦人科がん検診費用補助
  （2023年度　乳がん検診:約3.3万名、約1.8億円　子宮がん検診:約1.8万名、約0.9億円）
- ●子宮頸がん検診バスの派遣（2023年度:4,200名）
- ●定期健康診断時に、大腸がん検査キットを40歳以上の職員へ提供

心身の病気・未病への適切な対応

＜セルフケアの推進＞

- 年に一度のストレスチェック時に、個人ごとの分析結果とセルフケアに関する学習動画を提供し、一人ひとりが自身のストレスに気づく機会を提供しています。
- 社内外の相談窓口を周知するポスターを全所属で掲示し、心身の健康面の心配ごと等を相談しやすい環境の整備と周知を行っています。

＜ラインケアの推進＞

- 管理者向けに、当社産業医等によるラインケアに関する研修を実施しています。
- 管理者は職場ごとのストレスチェック結果を活用し、職場環境改善に向けた取組を実施しています。当社開発のストレスチェック集団分析サービス「SAAGAS（サーガス）」を活用し、詳細な実態把握と改善方針の策定に役立てています。

生活習慣の改善

＜運動習慣の改善に向けた取組＞

- スマートフォンアプリを活用した全社一斉のバーチャルウォーキングイベントを定期開催しています。
- 屋内でも可能な取組として厚生労働省が推奨する「＋10（プラステン）：今より10分多く体を動かそう」について、イベントツールを作成し、個人・所属単位での取組を推進しています。

ウォーキングイベントの参加者

＜食習慣の改善に向けた取組＞

- 「健康な食事・食環境」認証を取得している社内食堂で、健康メニュー「スマートミール」を日々提供しています。また、野菜の摂取を促進するイベント等、食生活の改善につながる体験型イベントを開催しています。
- 当社職員の健康データに基づいた食生活上の課題をテーマに、研修動画を作成し、食習慣の見直しと健康改善につながるアドバイスを実施しています。（2023年度は「脂質」、2024年度は「血糖」をテーマに実施）

＜禁煙習慣の改善に向けた取組＞

- 教材の提供等を通じた健康リスク、周囲への影響等に関する禁煙教育を実施しています。
- 全社において、敷地内全面禁煙を実施しています。また、就業時間内禁煙チャレンジ運営を段階的に導入し、2024年6月から全社で実施しています。
- 禁煙を促す取組として、健康保険組合による禁煙補助を実施しています。また、完全禁煙を目指すために、全社一斉での禁煙チャレンジ期間の設定（3カ月間）行っています。禁煙チャレンジャーへの支援として、社内の健康管理所における禁煙外来を実施しています。

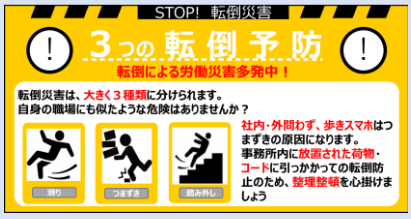
＜特定保健指導対象層等への生活習慣の改善に向けた取組＞

- 健康保険組合と協業し、定期健康診断の結果により指定された対象者への特定保健指導を推進しています。また30歳から39歳の生活習慣病予備群にも独自の生活習慣改善のサポートを実施しています。
- 当社のヘルスケア事業の一環としてお客様へご提供している「糖尿病予防プログラム」等を社内での保健指導に活用しています。

労働安全衛生

＜労働災害の未然防止に向けた取組＞

- 労働災害の発生状況や傾向を分析し、衛生委員会において共有化し、未然防止に向けた取組を協議しています。また、多く発生している労働災害の事案について、社内イントラネットや職場掲示を通じた注意喚起を実施しています。



各種データ

			2021年度	2022年度	2023年度
ニッセイ職員版 Well-being	3つの“幸”循環　※1 目標：2023年度比スコア向上　達成時期：2026年度		-	-	3.3
からだの健康	定期健康診断受診率		99.7%	99.9%	99.9%
	精密検査受診率		77.6%	75.1%	87.6%
	高血圧者のうち治療中の割合　※2		86.5%	87.6%	87.7%
	特定保健指導実施率　※3		59.6%	72.6%	76.8%
	適正体重者率　※4		61.7%	61.6%	61.4%
	喫煙率		24.7%	24.1%	21.8%
	運動習慣者比率　※5		17.0%	17.7%	16.9%
	がん検診受診率　※6	乳がん	73.3%	73.6%	73.0%
		子宮がん	53.3%	54.4%	54.0%
		大腸がん	72.8%	67.3%	67.3%
		胃がん	54.9%	52.6%	52.2%
	ウォーキングイベント参加者数		約2.3万名	約1.2万名	約4.9万名
	検診バスによる子宮がん検診の受診者数		4,060名	3,634名	4,200名
こころの健康	ストレスチェック	受検率	90.4%	94.5%	94.5%
		高ストレス者率	20.6%	20.9%	19.7%
		総合健康リスク	100	101	99
ヘルスリテラシー	定期研修の受講率　※7		91.7%	98.6%	96.9%
	希望者向けセミナーの満足度　※8		-	81.5%	98.9%
労働安全衛生	労働災害度数率　※9		1.41	1.40	1.64
その他	平均月間所定外労働時間		22時間	21時間	20時間
	平均年次有給休暇取得率　※10		71.0%	80.4%	86.6%
	平均勤続年数　※11		10.8年	11.5年	12.6年
	アブセンティーイズム　※12		2.6%	2.2%	2.0%
	プレゼンティーイズム　※13		65%	66%	66%
	ワーク・エンゲージメント　※14	仕事へのやりがい	-	3.4	3.4
		主体的な貢献意欲	-	4.0	3.8

※1　ニッセイ職員版のWell-beingを「3つの“幸”循環」として設定
　　「仕事」「暮らし」「心身」のそれぞれで幸せを感じながら、好循環を生み出せる状態の実現を目指す
※2　高血圧により治療中または収縮期血圧160㎜Hg以上または拡張期血圧100㎜Hg以上の職員が対象
※3　前年度下期から当年度上期にかけて実施した特定保健指導の完了率
※4　定期健康診断において、BMIが18.5以上25.0未満の職員の割合（40歳以上対象）
※5　1週間に2回、1回あたり30分以上の運動を実施している人の割合
※6　40歳以上対象
※7　ヘルスリテラシー向上に向けた全職員向け研修
※8　食習慣の改善に向けたセミナーを開催（2022年度、2023年度）
※9　労働災害のうち、休業を伴う案件を対象とした度数率
※10　普通休暇付与日数（21日）に対する平均取得日数の割合
※11　年度末時点での勤続年数の平均
※12　メンタルヘルス疾患により欠勤・不出勤となった職員の割合
　　（2022年度の測定人数:66,928名、回答率:100%）（2023年度の測定人数:64,323名、回答率:100%）
※13　通常発揮できる生産性を100%としたときの、現状の生産性の発揮割合（仕事の実績、質、量より算出した総合指数）
　　（2022年度の測定人数:62,453名、回答率:94.5%）（2023年度の測定人数:59,323名、回答率:94.5%）
※14　意識実態調査における該当設問のスコアより集計
　　（2022年度の測定人数:21,122名、回答率:91.6%）（2023年度の測定人数:54,068名、回答率:87.2%）